

黒井海軍大將書翰集

黒井海軍大將書翰集





黒井海軍大將
書翰集

箱 18
50

5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5



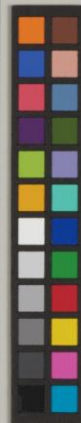
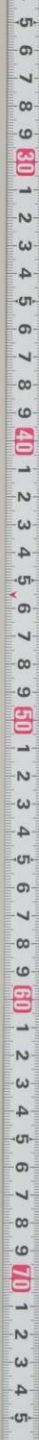


黒井海軍大將書翰集

冊 18
50

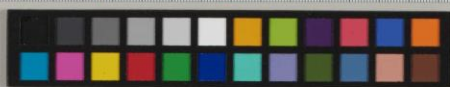
昭和六年六月十五日
坪谷水哉識





黒井海軍大將書翰集

冊 18
50





卷中目次

旅順攻圍海軍陸戰重砲隊陣地ヨリ	明治三十七年 十月二十九日
旅順海軍工作廠ヨリ	明治三十八年 十月十日
自定ヨリ	明治三十九年 二月二十日
鳥羽港外軍艦麻島ヨリ	大正元年 九月二十六日
自定ヨリ	大正十年 五月二十二日
馬公要港部官舎ヨリ	大正五年八 月十九日
澎湖島海軍官舎ヨリ	大正五年 四月一日
旅順要港部司令官之邸ヨリ	大正六年四 月二十六日
自定ヨリ	大正七年十一 月六日
吳軍港軍艦鞍馬ヨリ	大正八年一 月十七日

澎湖島海軍官舎ヨリ
 旅順要港部司令官ニ即ヨリ
 自定ヨリ
 大正五年四月一日
 大正六年四月二十六日
 大正七年十一月六日
 大正八年一月十七日
 吳軍港軍艦鞍馬ヨリ

旅順市牛込
 呼子長平印標
 軍重郵便 印
 大正八年四月一日

海軍陸戰支隊隊
 馬井 印

呼子長平印標

旅順市牛込
 呼子長平印標
 軍重郵便 印
 大正八年四月一日

人、知友軍、討國華

ヲあそび、シテ多、誠、要、計

ニ、地、一、元、常、茅、シ、タ、ル、見

常、方、面、ニ、於、テ、近、況、ウ、リ

同、友、ト、有、リ、新、頑、治、リ、テ

ト、モ、是、レ、ハ、天、命、ノ、要

害、ハ、彼、ニ、在、リ、ト、一、所、謂、鬼

ノ、人、金、指、ニ、在、リ、我、兵、ノ

勇、被、テ、山、ヲ、犯、シ、臨、臨、

シ、猛、進、有、リ、然、レ、

其、容、易、ニ、其、同、的、ヲ、達、ス

ト、終、ハ、ス、毎、攻、撃、北、犯、山

ヲ、散、リ、シ、テ、安、カ、ル、情、懷

ノ、光、景、何、ノ、形、容、ニ、比、

ナ、ク、恐、ラ、シ、ク、新、史、以、テ、最

モ、酸、醜、ヲ、露、顯、ト、ナ、シ、モ

可、ナ、ク、ナ、ル、ト、ナ、ル、旅、順、臨

新、ノ、名、實、ヲ、ハ、國、民、ニ、シ、テ

人、モ、同、シ、ク、其、意、ヲ、通、シ、シ、

畏、ル、モ、衣、襟、ヲ、丈、也

ミ、レ、自、ル、ニ、ト、同、工、也、ニ、ト、ナ、レ、

軍、ノ、一、馬、車、ノ、一、馬、車、ノ、一、

ニ、其、ノ、一、北、國、恩、ノ、報

ル、ノ、秋、モ、リ、見、格、レ、執、誠、ヲ

ナ、シ、テ、粉、骨、碎、身、以、テ、

此、所、ニ、在、リ、中、休、中、ニ、在、リ、

一、時、以、目、ノ、改、群、ノ、一、師、

公、表、ノ、曉、ニ、定、シ、諸、武

ヲ、致、馬、カ、シ、テ、車、ト、ナ、ル、

同、下、攻、撃、最、中、ニ、シ、テ、



公表ノ曉ニ定ム諸氏

シ
駁馬
かしら
車
ト
電
ろ
と

同上改稿中三十四卷中

3
 17
 トカ
 一
 段落
 1
 1
 1

其打高細子

何陣中紀念
カ
エ
ト

張氏三子中
以次子

高 洪 川 集 序 述

丁巳月曹

溪平白也

學

木下 相火 石炭の

年十月
王刊

城空光曜

2
1
- 13

東京市牛込北山伏町

平
卷
其
一
梅

福順

萬井何年古

軍事部役の私に「要」の紙
 中記詳に軍事部二部に分
 校部及び之北に法政部の
 設け可

旅順
馬井河川中流

軍事部校の秘録一通に愛知縣
伊豆郡津島町の軍事秘密一紙
投擲せられたる北清國の駐屯
兵止りたる事なり

輝
秋珍

可也其為定分可也

可也其為定分可也

相定叔母内地を中賜

かある事ありし事あり

帝國の首都に之

公園の開門、警察の火

討、自衛人の新軍

同族、新軍を意に

珍う、さう地味な

新開地、さう地味な

新開地、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

内地の戦況、さう地味な

ある地域の発展に果たす役割

人々を導くべき「活」

有る種の新起地を導く

地方自治の発展

経済の中心地を導く

府人会館の問題を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

経済の中心地を導く

第一期事

川揚軍第一下第一取相
其都合いりし第一期
外折吉折六長 此を折 三長
合計の長をいし 第一期事

東京市牛込山伏町

平谷吾郎様
其二 様書

承領

五月廿四日大書



業の可合の見計し書

々迄のやめ有経年長

巴川揚町より七段に及

ゆしとら備かに古折一長水

留は折一長のみと成りて

然る経りの答るる

事定まりては同日中

延期事業合部は終結

次第なり

臨定時日の半

も満たせぬは内々合部の事

加終り重なり得るに

主として技術官諸氏の協

と関係諸氏の長第

有の効り御事やとせはる

之も斯くとも速かんと

際根の好成績として日

初年の最初より常に我軍に

有田劭子傳事一と云はく
之も斯くとも速かんと云
隙相方の好成候と日家
新年の最初より常に我軍に
優勢ありと始終せし可謂天祐
の功なりと云ふやと云ん
天の同から好成の功に非ず
以上とも邦家守りの為
候と云ふに云ふなりと云ん
三上高嶺腹衆痛恨亦云
や、又ひん其塔の塔、
既經湖、磯かくあつ時にも
け恨綿いと云ふ、
先々当地は米穀船の来
船ありし（船係大連に云はく一乗
ありと云ふ）船係の功なり
年々其功の功なり
中、賑ふ事、市中
追々其功の功なり、
お日一日と増え、
是は、二ヶ月以内、
市市様、
と云ふ、
すき焼いす、
市市様、
より平井と云ふ、
お、
東京海軍大観
船式、
水中、
船も、
の、
書、
お、
お、

三
り
担
馬
車
に
乗
り
上
り
て
行
く

馬松子

一、張而中平冬

樓閣賜書
旅中

何處讀書聲

揮毫
筆

扣
燈
丁
金
鐘
鼓

卷之六

別後三所獻

公集目錄後記

中因法之奇甚

一、
一寸石曲之聲尤及果焚

之葉莢底部刻

中
如
錦
州
年
生
多
子

開差船二段
武士衣

船に港に暴沈せん

後之門揚々磨々々々々々

解藥アリ但此
裝並

江
水
漫
不
過
海

七
セ
ス

ミ
テ
ナ

只个我为雪
沙双，闭塞

負ト号ニ、水ニ其名焚ヲ收

貴
之
如
能
不
可

二、彈丸鉅帶一部

旅順以國就中節墓全

山德石以十寸石我力

火石磨
火石磨

常うひて制し氣き筆しつ

一 卷 庚 集 八 色 曆 通

糸
底
ち
糸
糸
巨
一
七
石
所

我輩障地：函下云々

又言

安永市付込山伏所元
呼名無字様
永長

多田清から長瀬新助
至拜懐望

料今日光山の上を
つる酒自足雖有
後より生る目下
何能清き某合
中り半たる難問
射解施り易中
毎の分洋粉十
酒ノ地土におし
實
射解施り易中
光二十番ノ家
常々面より極
其にわく
我等よりアノ
十奴にお金
わく
平力が
利
流石の鐵

かうと多神代

平山力が醸造元ニアラ

利キノ良イト 杉割ニカク

流石の鉄船一ツ

先づ一ツ 程りも

小艇に少ナク下駄客

ヲ蒙リ 陸岸ニ 櫓

出レクルニおもう 神代ニ 鼓

國の如等ニ向テ吹ルハ 吹

十北ニカト思ひシニ 鼓

味方の吹シ音ガ ニ吹キ捲

クルトハ 神代ニカ

シテリせん 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

米代力ハ 吹トハ 吹

船般ノ 吹トハ 吹

セシテ 吹トハ 吹

ニリリ 吹トハ 吹

解 神代ニカ

所謂 神代ニカ

所リ様 吹トハ 吹

トカシ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

吹トハ 吹トハ 吹

坪
王善堂
張

原不楚國白金標明六一

玉井懷泉

邦

叮咛家用

陶穀

其
一
雜書類

其年

美千 圖書館の

裡
新
子
一
三

大橋圖書館

あ
目
の
政
部
局

中序の愛

東
極
原
方

海
刻玉之石

一人少一重中

遇
主上
小
車
方

抄卷之四 部六上 五

庚申年

[illegible]

平為善學橋

馬公要港部
橫須賀海軍官舎
黒井悌次郎

翠
 山木桃葉
 兄
 二月廿五日
 初九日
 楊
 楊

新巻 山木 桃葉

先... 初...

... 程...

... 山...

... 彩...

... 面...

... 水...

... 起...

... 増...

... 新...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

... 志...

今西新嘉坡方面より
 官立洋方面と海上
 繋通し、往來し、及
 野島海中に旌旗
 利根を以て示す。



澎湖島
 郵便局
 黒井 悌次郎

常事市牛込山伏町元
 坪 善寛 様
 多謝状



所 望 一 部
 見 込 申 上 せ ぬ
 此 等 申 上 せ ぬ
 中 心 申 上 せ ぬ
 一 部 申 上 せ ぬ
 坪 善 寛 様



四

今由新嘉坡方面より

東洋方面と海上

英海、往復し及

野呂島中の施航

利根におおる、

明日新嘉坡、

おき、

新嘉坡、

往復し、

地方より、

南方海上、

第、

新嘉坡、

カンガカン、

以、

船中の、

兄弟、

新嘉坡、

何、

送、

新嘉坡、

手、

又、

新嘉坡、

手、

新嘉坡、

新嘉坡、

新嘉坡、

旅順要港部司令官官邸

黒井悌次郎



おと
清平は
多うお共中
皆狂
一南さん
端
才疑
上りし
注意
ナリ
車
一
残
馬
か

かりし事
 残る事
 馬
 水
 甲
 乙
 丙
 丁
 戊
 己
 庚
 辛
 壬
 癸
 子
 丑
 寅
 卯
 辰
 巳
 午
 未
 申
 酉
 戌
 亥

牛込
水山
呼為善堂
長

建
白生
弟

望

呂上康

望

呂上康公

二月一日 書

用信札

明倫彙編
家範典
孝親
卷一百一十五

此
ふ
去
年

シ
カ
ラ

シ
カ
ラ

在中華書局
丁亥

氣

前
子
何
之
人
子
從

中

馬名十匹，
其為軍
才

日
辰

功業
全壽
子
海
之

中
江
常
之

十
三
以
其
其
其

其心

吳
斗
一
志
如
世
木
成

雷下平水

性悲

大
博
井
柳
ト
ナ
切
ミ
ナ
リ

新正吉

一

孝

外科

水



ナ

卷十

水

東島 味 込 出 可 元
呼 為 善 習 子

張

以爲軍服

五井悌次郎

中國韻部

是は、
 中
 下
 概

書狂の年

はねやう
うゝ者
七十

成る内中 光顯さん

か
巾
杯
何
や
ら
い
ん

ニ
十
い
か
の
が
實
や

世に於て

火を
き
に
火を
か
れた
る
手
目
ふ

此
あ
ち
、
の
手
も
元
き
ん
見



二十をかりの別、實に

結せしとて **世**の火大

火に焼かれたる句

もあつ、うすも **焼**き

焼りずん又々物 **義**の

種をまき事 **焼**き

事 **焼**き **餅**、

國根性 **焼**き **大**

魂の内 **焼**き **並**

根が **焼**き **並**

計り **焼**き **並**

たりし **焼**き **並**

じと **焼**き **並**

り **焼**き **並**

い **焼**き **並**

と **焼**き **並**

顔 **焼**き **並**

残 **焼**き **並**

弱 **焼**き **並**

友 **焼**き **並**

い **焼**き **並**

と **焼**き **並**

と **焼**き **並**

の **焼**き **並**

下 **焼**き **並**

あ **焼**き **並**

と **焼**き **並**

お **焼**き **並**

秋 **焼**き **並**

新 **焼**き **並**

事 **焼**き **並**

ト研のわろの提灯を
おちやん

秋
水
の
音

落淚、情免、疑小、言

秋 風 の 乃 毛 風 銀 と 夢

小
志
第
一
卷
米
言
卷
一

[illegible]

須臾

賣武弄

糸
 イッパ
 糸の
 糸の
 糸の
 糸の

月
月
を
破
り
て
ん
は
し
り

きになつとい
危
き事

抄説の大失敗ヨリ興亡

邦
一
歲
之
求
久
比
之
上

上

意匠

大改治富か、我屋下の

田
樹
界
善
道
事

國
 具

復、常和、

人爲之

同公
政
源

斗
斗

一
日
七
第

家

100

我手
一
政治家か、我國現下
思想界ノ善導者ニ一奉
一身ノ榮利ヲ具スル
人を取テ之を爲スルノ斗
争政黨有流ニシテ今カラ
中々期ハ難致カレシ
斗ノ意也

赤松

一日
水心
梯